

令和6年度 学校経営方針

学校教育目標 校訓 『自立・友愛・真理』

豊かな心を持ち、創造力に富む、心身ともに健康な生徒の育成
「みんなちがって みんないい」(自己肯定感の育成) 「人のために役立つ人間になろう」(自己有用感の育成)

めざす学校像 「千草台中に来てよかった、学べてよかった」という学校づくりの推進

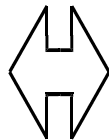
○夢と希望が広がる学校 ○意欲と活力に満ちた学校 ○笑顔と挨拶が溢れる学校 ○安全で安心な学校

育成したい資質・能力

○未来を切り拓く言語能力・コミュニケーション力の育成 (R5カリキュラムマネジメント研修資料より)

何ができるようになるか 学校教育の基本

- 知・徳・体にわたる「生きる力」を育むために、全ての教科で「資質・能力」の3つの柱と、教科独自の見方・考え方で捉えるようにしていく。
- 個別の知識にとどまらず、知識相互を関連づけ、社会の中で生きて働く知識を習得する。
- 理解していることを未知の様々な状況に活用できる「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける。
- どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという「学びに向かう力、人間性等」を涵養する。



何が身に付いたか 評価と学習指導の改善・工夫

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価する。評価観点の変更が学習指導ならびに授業改善になるよう進めていく。
- 評価は、毎回の授業だけではなく、**単元や題材を通じたまとまりの中で見取るようにする。**
- 指導と評価の一体化を目指し**短期間でのPDCAサイクルを確立し組織的な対応の改善と個に応じた学習指導の充実を図る。**

子どもの発達をどのように支援するか

子どもの実態

- 一小一中のため、生徒がお互いの長所や短所をよく知っており、認め合って生活できる。
- 行事などで、学級・学年の枠を超えて学校全体で団結して取り組むことができる。
- 人間関係づくりや自分の考えを積極的に表現することを苦手とする生徒が多い。

配慮を必要とする子どもへの指導

- ICTを積極的に活用しながら、**少人数指導・ITなど個別対応を図り、基礎学力の定着を図る。**
- **教職員間の情報共有を行い、十分な協議を経て、組織として支援にあたる。**
- 積極的な生徒指導や個々の状況の把握に努め、丁寧な教育相談を心がけ、一人一人の子どもの成長に繋げる。

めざす子どもの姿

- 主体的に考え、判断し、学ぶ生徒。
- 自分を大切にし、他者を思いやる生徒。
- 心身ともに逞しく、チャレンジする生徒。

何を学ぶか 教育課程の編成

- 各教科等の目標における見方・考え方を明確にし、各科の指導内容や活動を通して、資質・能力の育成を図る。**(資質・能力の育成を目指した教科のグランドデザインづくり)**
- 言語活動、課題を追究したり解決したりする活動、数学的活動、見通しをもって観察・実験を行うこと、表現および鑑賞の幅広い活動、心と体を一体として捉える、生活や技術に関する実践的・体験的な活動、外国語による聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの活動などを通して学ぶ。
- 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度や、自己の生き方、集団や社会の形成者として必要な資質・能力の育成を図る。

どのように学ぶか 教育課程の実施

- 学びに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組んだり、課題や仮説を自分で設定したりするなど**自らの学習を振り返り、次の学習につなげるなど「主体的な学び」**を行う。
- あらかじめ考えた**自分の意見を交換したり、議論したりする「対話的な学び」**を通して、自己の考えをより妥当なものにしていく。
- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、**知識を相互に関連づけてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりすることで、「深い学び」を実現する。**
- **体験活動や外部人材の協力を得て多様な学習を実施したり、教科を横断的に学習したりしてGIGA タブをはじめとするICTを活用する。**

実施するために何が必要か 指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- チーム学校として、**全職員で生徒の実態に基づいた教育活動を実施し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。**
- 校内研修、校外での研修の受講、研究授業の実施等を通して、**教師の指導力の向上を図る。**
- 地域と連携して、情報の共有化を図り、生徒活動の充実や環境整備につなげる。一小一中の利点を生かし、9年間を見通した教育活動推進に向け、生徒・児童の交流活動を充実させる。また、**育成委員会、近隣の高校・大学などと連携し「ちぐさ寺子屋」のさらなる充実を図る。**

研究主題 確かな学力を育む授業づくり

○教師：ICT活用のさらなる資質向上

～ICT機器とのベストミックスによる言語能力の育成～

○生徒：正しくかつ有効に情報端末を使い、思考力を伸ばすスキルを育成